

「再生の大地」—撫順戦犯管理所—
隣り合う国中国と日本
海に隔てられても海の底深く
大地はつながっている遠くて近い国
近くて遠い国 中国と日本…

「再生の大地」歌い始めのフレーズです。
シベリア抑留後、旧ソ連から「戦犯」と
して中国に送られ、自らの侵略行為に向
き合い、帰国後「反戦平和と日中友好」
に生きた人たちの人間回復ドラマです。
ご存知でしょうか。

今もなお世界に戦火が続いています。
世界中がコロナパンデミックに直面し、
歴史と戦争と命を考える今、世界に平和
と友好が広がることを願って、歴史の教
訓を伝える「再生の大地」を歌います。

10年間の蓄積を踏まえ、今回シンセサ
イザーも加わりオーケストラシュミレ
ートバージョンで新たなエネルギーを吹き
込んで演奏します。是非お聴きください。

「撫順の朝顔」

過去を忘れず未来に生かそう
再生の大地合唱団
十周年記念演奏会

2021年**11月30日**(火) 17:00 開場
18:00 開演

小金井 宮地楽器ホール JR武蔵小金井駅南口

主催
「再生の大地」合唱団
共催

撫順の奇蹟を受け継ぐ会 NPO 中帰連平和記念館



十周年記念講演：山田朗
**「戦争犯罪と戦争責任を考える：
 帝銀事件捜査で明らかになったこと」**

1948年の帝銀事件捜査過程で明らかになった日本軍の化学戦・生物戦・謀略戦部隊の全貌とこれらの関係者がGHQとの取引で、免罪され、さらには米軍の秘密戦に協力していった事実を解明します。

山田朗（やまだ・あきら）

1956年、大阪府生まれ。明治大学文学部教授、平和教育登戸研究所資料館長、専攻は日本近現代史。歴史教育者協議会委員長。

主な著書として、『大元帥・昭和天皇』（新日本出版社、1994年、ちくま学芸文庫、2020年）、『軍備拡張の近代史』（吉川弘文館、1997年）、『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）、『兵士たちの戦場』（岩波書店、2015年）、『帝銀事件と日本の秘密戦』（新日本出版社、2020年）などがある。



大門高子：作詞 / 構成
 作詞・児童文学・ミュージカル等平和や教育などをテーマに創作活動を展開。南京事件を扱った「紫衣草物語」は全国の合唱団員と共に中国各地や台湾・NYなど12回の海外公演を行う。絵本「むらさき花だいこん」等多数。

扱った「紫衣草物語」は全国の合唱団員と共に中国各地や台湾・NYなど12回の海外公演を行う。絵本「むらさき花だいこん」等多数。



安藤由布樹：作曲 / 音楽総監督

東京芸術大学作曲科卒業。日本作曲家協議会会員、日本リトアニア友好協会理事、日本ウズベキスタン協会会員。主要作品にオペラ「杉原千畝物語」、オペラ「ラビュリントス」「お鶴島」カンタータ「この灯を永遠に」など多数。世界各国と音楽を通じての平和友好・相互理解をライフワークとしている。



金田まり子：指揮

東京芸術大学音楽学部音楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。ソプラノ歌手としての演奏活動とともに「悪魔の飽食」を歌う東京合唱団等、多くの合唱団の指揮者指導者、ヴォイストレーナーとしてまたミュージカル公演の歌唱指導者として幅広く活躍。自然な発声法に基づく表情豊かな音楽作りが支持されている。



戸梶江吏子：ピアノ

玉川大学芸術学科音楽専攻ピアノ科卒業、同大学芸術専攻科修了。横浜国立大学大学院教育学研究科芸術系教育専攻修了。2009、2015、2021年にソロリサイタルを開催。ダンカン舞踊継承者メアリー佐野との共演活動を長年に渡り続けている。声楽・合唱・楽器の伴奏者として活躍中。



下田仁：シンセサイザー

幼少よりピアノ・ギター、中学でブラスバンド、高校で合唱を経験し、大学でジャズを始め、更にポップスやラテンにも親しむジャンルを広げた。縁あって、市民ミュージカルの音楽隊でシンセサイザーを弾くようになり、そこで安藤由布樹氏と出会い、今に至る。



合唱朗読構成「再生の大地」—撫順戦犯管理所—の楽譜を販売しております。¥2,000
 練習は月2回、赤羽・府中・小金井など都内各所。



11月30日（火）5時開場 / 6時開演
小金井 宮地楽器ホール ¥2,000

- JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前
- バス：小田急バス、関東バス、西武バス、京王バス
 「武蔵小金井駅」下車 徒歩1分
- ※当館には駐車場がありません。

お問い合わせ・予約 / 佐藤 (090-8052-5832)

宮地楽器ホールのガイドラインに従い、マスク着用・検温・入場者数など感染防止策を徹底した上でお待ちしております。

